

---

plasticlover

祀歌スピカ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

plasticlover

### 【NZコード】

N4473E

### 【作者名】

祀歌スピカ

### 【あらすじ】

ノイズだけの世界から少女・プラチナの声に引き寄せられた”ボク”。世界の果てまで歌を伝えるために旅をしているという、プラチナとその主人・マエストロ。突然の出会いは偶然か、それとも？

## プロローグ・ノイズ

ざああ・・・  
ざああ・・・

聞こえてくるのは、ひたすらこのノイズだけ。

ボクはその前もその後もなく、ただそこにたまつていただけ。

目を開けても、ひたすらなブルー。

いつからそこにいたかもわからない。

浮いているのか、飛んでいるのか・・・それすら

ざああ・・・

ざああ・・・

そう、このセカイは、ノイズに包まれたまま、どこに行くこともないと思っていた。

「あっ、気づきましたよ、マコストロ

ざああ・・・  
ざああ・・・

相変わらずのノイズの中へ、鈴のよくなかわいらしげの声を捉えたのがボクの目覚め。

ざああ・・・

「マヒストロ、マヒストロひてばー」

びああ・・・

おかしいな。

このセカイには、耳障りなあの音以外に伝わってくるものなんて、あつたのか。

ブルーがゆつくりとその輪郭を形作る。

少女だ。銀色を美しく結った髪が、その声のまましゃらんと揺れる。柔らかく無垢なくちびるの両端が、優しく持ち上がる。

ボクは右手で彼女の口元を触れた。少女はちょっと驚いた顔をする。ボクも自分の行動に驚く。右手? 右手なんてあつたのか、ボクに。少女は触れたボクの手を小さな手で包みこむと、ボクの瞳を見て、言つた。

「だいじょぶですか?」

その言葉に、途端に重くなつた自分のカラダを感じる。

「あつ、私・・・私は、プラチナ。ノクターン・プラチナ。あなたは・・・」

「・・・・・・・」

「えーっと、だいじょぶですか?」

綺麗な眉をひそめて再度声をかけるプラチナと名乗る少女。ノイズしか知らないボクには、返事をすることが出来ない。

「行き倒れにいちいちかまうな、プラチナ」

『音』の出し方に戸惑つていると、上空から突き放すような低い声が少女に、そしてボクに浴びせられた。プラチナの視線がボクからその『男』に向かつ。

「マエストロ、そういうのは冷たこと思ひわ

くちびるをつんと尖らせていひ。

マエストロと呼ばれた男はふーっと深いため息をついて、彼女の目線に座り込んだ。

そうして、彼女と同じようにボクを覗き込んで、その言葉を発したのだ。

「・・・『起きる』」

不思議と重かつた自分のカラダが、ふと当たり前のようだに感じた。彼女に触れた右手を、柔らかい白い砂の上に。

砂。

起き上がる。頭が、少し痛い。耳が眩む。

今まで見ていたブルーは、『空』？

砂、そうだ、ここは。

「起き上がれますか？」

プラチナの補助で、ボクの上半身は支えられた。ぶんぶんと頭を振ると、視界のブルーは既に無かつた。

代わりに足元に、穏やかな波が繰り返し押し寄せていた。

ざああ・・・

ゞああ・・・

「よかつた」

銀色の瞳を細めたプラチナは嬉しそうだ。

「あなたのお名前は？」

「・・・・・・・・」

やはり出ない『音』に、思わず喉元に手を当てた。  
そして、呆れ顔のマエストロから一度田の言葉を聞いた。めいれい

「・・・・『名前は?』」

「あ・・・・つ?」

『音』。のちにそれが『声』だとこいつことに気づいた。

「すてきなお声が出るじやないですかー！」

プラチナが嬉しそうにボクの手を取った。

「ノイズ。そう、バルカラーレ・ノイズ」

それがボクの名前だ。

氣づくと、繰り返し続いていたあのノイズは消えていた。

代わりに、心地よい波音が耳元を掠めてゆく。  
自分の力で立ちあがると、プラチナはボクよりも少し小さかった。

見上げるよつにボクの瞳を覗き込んで、また笑う。そのじぐわかり、涼やかな音を奏でるよつだ。

「ノイズ。そう、良かつたわ、だいじょうぶねえ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4473e/>

---

plasticlover

2011年1月3日13時04分発行